

令和3年度（令和2年度分）学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和3年度（令和2年度分）自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- | | |
|------------|---|
| （委員長）村山 忠 | 公益社団法人 園芸文化協会 事務局（元事務局長） |
| （委員）大久保茂徳 | 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員
テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師 |
| 鈴木 靖子 | 公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師 |
| 星野 学 | 本校卒業生代表 |
| 岡部有希子 | 本校卒業生代表 |
| （事務局）伊東 政信 | 学校法人伊東学園 理事長
テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長 |
| 古谷 民子 | 同 教務部長 |

2. 実施日時 令和4年1月19日（水） 14:00～16:00

3. 令和3年度（令和2年度分）自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

- ・学校としての将来構想を今以上にきちんと定め、全教職員が共通理解のもと、各自が能動的に行動できるよう努めてほしい。

2) 学校運営

大よその運営方針や事業計画は定められているので、適宜見直して改訂を行いながら、それにそった運営をすること。

- ・情報システム化は専門家に依頼するなどして少しずつ進めていってほしい。

3) 教育活動

- ・授業評価については学生からの評価をそのまま鵜呑みにするのではなく、判断は慎重に行う必要があり、それを学校がどのように受け止めるかが大切である。
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供については密に行ってほしい。
- ・講師には担当科目以外のカリキュラムの情報提供も行ってほしい。
- ・引き続き、学生が自主的に様々なことに取り組めるような雰囲気醸成や制度の整備に努めてほしい。

4) 教育成果

- ・毎年就職率、資格取得率は高い水準を保っているため、引き続き指導に注力してほしい。
- ・在校生だけでなく、卒業生の活動についても把握する必要がある。

5) 学生支援

- ・同窓生への支援体制も少しずつでもいいので整えていってほしい。

6) 教育環境

- ・可能な限りで引き続き整備に努めてほしい。
- ・常に最新の機器とはいかなくてもある程度のものはそろえた方がよい。

7) 学生の募集と受け入れ

- ・募集活動そのものは問題なく行われているとはいえ、入学定員を満たすことが本来の適正な募集活動といえる。
- ・テクノ・ホルティの知名度をもっと上げられるとよい。

8) 財務

- ・企業や業界団体とのタイアップで少しでも収入増につながるとよい。
- ・ネット販売なども立ち上げていくのはどうか。

9) 法令等の遵守

- ・学生間でのトラブルが発生したときの対応も考えていかなければならない。
- ・個人情報などを扱っている学校においては、一切の問題がないように常に点検し対応していくべきである。

10) 社会貢献

- ・地域の講座等は実施しているようなので、引き続き学生をアシスタントにつかせるなどしてコミュニケーション能力の醸成にも役立ててほしい。
- ・職業訓練も社会貢献の一つであるため、可能な限り継続していってほしい。

3. 総評

上記10項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、学生募集に関しては学生数の増減は財務だけでなく教育活動や学生支援、教育環境など、多岐にわたり影響を与えることから、引き続き教職員一丸となって学生数の増加に努めることを望みます。

以上